

第6回 移住・定住 PT レジюме

— 施策パッケージ設計とプロモーションについて —

1 類型化した人物像の世界観について

前回、PT メンバーに作成してもらった「世界観」は、キャラクターの感性・感情を重ね合わせることで、複数の作品に共通する「各務原らしさ」が自然に浮かび上がってきたところ。

PT として共有すべき要素は以下のとおり。

(共通して現れた世界観の要素)

色…青、夕暮れ、緑、家の暖かな灯り。

音…航空機、家族の声、友人の笑い声、自然の音。

景色…広い空、公園、木曽川、低い街並み、住宅、道路。

人…技術者、家族、友人、親、これから人生を決める若者。

感情…余白、安心、解放、誇り、つながり、「もう一度やってみよう」という思い。

時間…朝の1時間、18時以降、夕暮れ、休日、つまりこれまでは仕事や移動のために奪われていた時間。

価値…仕事を捨てない、都会の便利さも全部捨てない、家族も、自分の時間も、友人も、趣味も諦めない、その代わり、人生の配分を少し変える。

これらは、10名の作品を並べたときに自然発生した「各務原の世界観の原石」であり、次の工程で施策パッケージを設計する際の組み立てのための「基礎素材」として活用していきたい。

なお、世界観を作りこむプロセスは今回で一旦区切りとするが、今後の施策パッケージ化の過程において、当該パッケージ化からのインスパイアを受けながら、各人が世界観をふくらませていってもらいたい。

2 施策パッケージの設計

今回メンバーが作り上げた「世界観」を踏まえ、それぞれのキャラクターが求める人生の価値観と、本市の市民サービスの各施策がどのように接続するのかを考えていく。

その際、メンバー各々の出身の部課の所掌にとらわれず、メンバー全員で様々な分野の市民サービス施策を改めて見つめ直してもらいたい。（例えば、この雇用斡旋施策をこのようにアレンジすれば、空き家対策へと繋げることができるのに、、、、など。）

段階	検討内容	位置付け
第1段階	4 類型の暫定確定、ターゲット仮説の整理	済
第2段階	ターゲットから見た各務原市の魅力・不足・移住障壁の分析	済
第3段階	4 類型に共通して提供できる人生価値と「各務原市とは何か」の言語化	一旦済
第4段階	住まい、仕事、子育て、教育、交通、コミュニティ等を束ねたターゲット別施策パッケージの設計	世界観を市施策へ翻訳（今回）
第5段階	既存施策、追加施策、民間連携、制度改正及び予算措置への分類	実現可能性の確認（次段階）

【施策をパッケージ化するための視点】

- ・ 誰の、どの悩みを解決する施策なのか。
- ・ 各務原市のどの固有価値を強める施策なのか。
- ・ 行政だけで行えるのか、企業、地域、大学等との連携が必要なのか。
- ・ 既存施策の組合せのみで対応できるのか、新規施策が必要になるのか。

3 プロモーションを見据えたスケジュールについて

今後のアジェンダは以下のとおり。

○令和8年度下半期

- ・ 移住定住パッケージ施策の具体化及び先進地の視察。
- ・ あくまで市の既存施策のパッケージ化であり、現時点で新規施策の開発は考えていない。然るに令和9年度当初予算において、本PTに関連した事業予算の計上は考えていない。施策を所掌する各部課に対して新規施策の開発や既存事業の抜本的な改変を発注することは考えていない。
- ・ ただし、企画広報課において所要のシティプロモーション経費（パッケージ化した施策のPR経費）を要求する。

○令和9年度

- ・ 移住定住のためのシティプロモーションPTに昇華・改変。
- ・ 令和8年度中に具現化する移住定住パッケージ施策のPR強化及び広報戦略の実装。

4 その他

- ・各務原映画祭実行委員会の協力のもと、各務原映画の上映会を実施予定。

実施時期は、PT の業務の一環として公務扱いとして位置付け、10 月前半の課業時間内で調整中。「光射す」「鍵」の2作品を鑑賞後、意見交流会を開催。

- ・来年度5月頃を目途に、追加メンバーの募集を行う考え。

今回のプロジェクトチームメンバーの活躍を見て触発された職員が一定数いるものと見込まれ、いわば未来の市行政を牽引する市職員若手集団として育てていてもらいたいと考えている。